その他（留学体験記）

国立保健医療科学院研修中のフィリピン留学体験記

吉本奈央[1)]，森岡久尚[2)]，笹　聡一朗[1)]，門田宗之[1)]，津田　恵[1)]，西　京子[1)]，岩田　貴[1)]

[1)] 徳島大学病院卒後臨床研修センター

[2)] 徳島大学医学部公衆衛生学分野

（令和５年３月16日受付）（令和５年３月28日受理）

要　旨

徳島大学病院２年目研修医として国立保健医療科学院の研修でフィリピンの海外研修を経験したので報告する。国立保健医療科学院は，保健・医療・福祉に関する教育・調査及び研究を行う機関で，専門課程Ⅲ地域保健臨床研修専攻科で２ヵ月間研修した。厚生労働省・千葉県庁・国立感染症研究所などでの院外研修に加え，フィリピン（マニラ）での１週間の海外研修は，主にフィリピン大学，Philippine General Hospital，郊外ヘルスセンターやWHO西太平洋事務局で蚊媒介性感染症や，人畜共通感染症，寄生虫感染症について講義・研修を受けた。日本と大きく乖離しているフィリピンの生活環境の衛生面が原因で狂犬病や寄生虫感染症が猛威を振るっていることは実際の視察で理解できた。海外の医療現場で医療制度について学ぶことで，日本の医療制度のメリットや，今後目指すべき方向性などをさまざまな視点から改めて深く考えることができた。

この度，徳島大学病院２年目研修医として国立保健医療科学院で研修を行い，フィリピンで１週間の海外研修を経験しましたので報告いたします。

国立保健医療科学院は，保健・医療・福祉に関する教育訓練や調査及び研究を行う機関で，研修施設として全国から応募のある施設で，毎年14名程度の研修医を受け入れています（図１）。私は専門課程Ⅲ地域保健臨床研

図１　国立保健医療科学院専門課程Ⅲ地域保健臨床研修専攻科で２ヵ月間研修を受けた同期とともに（筆者：下段右から３人目）

修専攻科で本年10月から11月末までの２ヵ月間お世話になりました。２ヵ月の研修では，さまざまな公衆衛生分野に携わる先生方の講義を受講し，厚生労働省・千葉県庁・国立感染症研究所などでの院外研修に加えて，フィリピン（マニラ）での１週間の海外研修を経験しました。

フィリピンでは，主にフィリピン大学での講義やPhilippine General Hospitalの見学，郊外のヘルスセンターやWHO西太平洋事務局（WPRO）への訪問を経験しました（図２）。

2022 NIPH Japan
INFECTIOUS DISEASE CONTROL MODULE
November 14-18, 2022

SCHEDULE OF ACTIVITIES			
VENUE	**TIME**	**ACTIVITIES/ TOPICS**	**PERSON/S –IN-CHARGE**
Day 1: Nov. 14, 2022, Monday			
CPH Library Mezzanine	8:30 - 8:40	Opening Remarks	Dean Fernando B. Garcia, Jr.
	8:40 - 8:55	Introduction to the Course	Dr. Maria Margarita M. Lota
	8:55 – 9:10	Photo Opportunity	
	9:10 - 10:10	Neglected Tropical Diseases (Soil Transmitted Helminthiasis, Schistosomiasis) and Filariasis	Dr. Vicente Y. Belizario, Jr.
	10:10 - 10:30	BREAK	
	10:30 - 11:30	Malaria	Dr. Pilarita T. Rivera
	11:30 - 12:30	Dengue and Japanese Encephalitis	Dr. Maria Margarita M. Lota
	12:30 - 13:30	LUNCH BREAK	
	13:30 – 14:30	TB and MDRTB	Dr. Evalyn A. Roxas
	14:30 – 15:30	Measles and Polio	Dr. Maria Margarita M. Lota
Day 2: Nov. 15, 2022, Tuesday			
Room 102	9:00 – 10:00	Leptospirosis	Dr. Sharon Yvette Angelina M. Villanueva
	10:00 - 10:20	BREAK	
CPH Library Mezzanine	10:20 – 11:00	Rabies	Dr. Sheriah Laine De Paz-SIlava
	11:00 – 12:00	ERID (COVID19 and Monkeypox)	Dr. Evalyn A. Roxas
	12:00 - 13:30	LUNCH BREAK	
PGH	13:30 – 16:30	Visit to Philippine General Hospital	Dr. Evalyn A. Roxas Prof. Marohren Altura Ms. Micaella Dato
Day 3: Nov. 16, 2022, Wednesday			
WHO- WPRO Office	AM	Visit to World Health Organization-Western Pacific Regional Office	Prof. Geraldine B. Dayrit Ms. Loisse Loterio
		LUNCH BREAK	
CPH Library Mezzanine	13:30 - 14:30	The Philippine Public Health System; Health and Development	Dr. Susan Yanga - Mabunga
Rm 102	14:30 - 16:00	MOA Signing	Dr. Tomofumi Sone NIPH President Dr. Fernando B. Garcia, Jr, Dean UPCPH
Day 4: Nov. 17, 2022, Thursday			
	Whole day	Visit Provincial and Municipal Health Offices: Manganate Community (Cavite)	Dr. Sharon Yvette Angelina Villanueva Prof. Azita Racquel Lacuna
Day 5: Nov. 18, 2022, Friday			
RITM	AM	Visit to Research Institute for Tropical Medicine	Dr. Maria Margarita M. Lota Dr. Sharon Yvette Angelina M. Villanueva
		LUNCH BREAK	
CPH Library Mezzanine	PM	Closing Ceremonies Awarding of Certificates	DMM Faculty and REPS

図２　フィリピン（マニラ）での研修スケジュール

フィリピン大学では，実際に現地の最前線で活躍されている医師から主に感染症についての講義を受けました。感染症の中でも，蚊媒介性感染症や，人畜共通感染症，寄生虫感染症について講義をしていただきましたが，その中でも日本ではすでに制圧されていると考えられている狂犬病や寄生虫感染症について学んだことはとても新鮮であると同時に，いまだに同じ世界でこのような感染症が起こる地域があるということに驚きました。なぜそのような感染症がいまだに残っているかということを１週間の滞在で身をもって理解できたように思います。私たち研修生はフィリピン大学からすぐ近くのマラテという地域に宿泊しておりそこで過ごすことが多かったのですが，日本でずっと生まれ育った私には衝撃的なことばかりでした。トイレは自動ではなく桶を使って排泄物を流す手動での水洗，人通りの多い道に野良犬がたくさんいたり，一本裏路地に入ると分別されていないゴミがあちこちに散在し異様な臭気が立ち込めていたりしました。Philippine General Hospital の見学の時には短時間のスコールで敷地内を含めた病院周囲の道路が冠水していまい，汚物混じりの雨水は病院の敷地内にも侵入する状況で，私たちはブロック塀を並べた上を渡って帰ることがあり，病院といえども衛生面で大変厳しい状況にあることを感じました（図３）。日本で暮らしていると意識することのない，衛生状態やインフラ整備が健康に及ぼす影響について身をもって考えさせられました。

図３　短時間のスコールで Philippine General Hospital の敷地内を含めた病院周囲の道路が冠水した

Philippine General Hospital では，感染症フェローによる担当患者のプレゼンを聞いた後，実際に院内へと案内していただきました。感染症フェローからのプレゼン内容を伺うと提供されている診療内容は世界標準レベルと思われましたが，病室は一部屋が体育館並みの広さで男女混合，仕切りもなく，気温が30度以上の蒸し暑さのなかエアコンもないという，決して整っているとは言えない療養環境でした。フィリピン国内の病院は，Public Hospital と Private Hospital に分かれており，今回見学させていただいた Philippine General Hospital は Public Hospital であり，最新設備が整った綺麗な病院の多くは Private Hospital だそうです。Private Hospital は Public Hospital と比較して入院費が高くなっており，貧富の格差が大きいフィリピンでは富裕層しか入院することができません。日本のように国民皆保険制度も浸透しておらず，医療格差が起きているのが現状のようでした。また，人材の海外流出による医療従事者不足も深刻であるようで，患者に必要な薬剤や点滴を家族が買いにいっており，家族のための待機テントが病院の外に設置されていました。海外の医療現場をみて，医療制度について学ぶことで，日本の医療・制度のメリットや今後目指すべき方向性などをさまざまな視点から改めて深く考えることができるようになったと思います。

４日目の郊外のヘルスセンター研修では，マニラから車で２時間ほど南にいったところにある，キャビテ地方のヘルスセンターを見学させていただきました。フィリピンでは，バランガイという村規模の自治体単位でヘルスセンターが設置されており，そこには医師が在中し，保健センターと診療所が合体したような役割を担っていました。そこには，医師の他に，地元の主婦が１ヵ月の研修を受けながらヘルスセンター職員としての業務をするコミュニティヘルスワーカーが在住しており，ボランティアでコロナワクチン前の問診や，診察前のバイタル測定などを行っていました（図４）。新型コロナワクチンの接種が開始した際には，ヘルスワーカーが住宅を一

軒一軒回り，接種を呼びかけていったそうです。新型コロナ感染症対策の研修として，徳島県庁入院調節課で患者さんの電話対応の経験をした後で，フィリピンの新型コロナ対応を見ると，日本では保健所のような公的機関と診療所は別々に対応していますが，フィリピンの様に一体化することでより手厚い保健指導を行うことができ

図４　村規模の自治体単位でヘルスセンターであるバランガイでの実習

図５　フィリピン大学の学生たちとの交流（右端：筆者）

るのではないかと感じました。また，同時にヘルスセンターに実習に来ていたフィリピン大学の学生とも交流することができ，医学教育のカリキュラムやフィリピンの文化についてなど，色々な話で盛り上がりました（図５）。

WPRO 訪問では，実際の国際会議で使われている部屋でご講義いただき，今後の国際保健の動向や，WPRO と各国がどのように連携されているかについて講義していただき，これまでイメージの付きづらかった国際機関と国際保健との関連について理解が深まりました。また，実際に WPRO で働く先生方のキャリアについてもお話を伺うことができ，半日の訪問と短い時間ではありましたが大変貴重な経験ができ，国際保健に対する興味も大変わきました。

１週間という短い期間での海外研修ではありましたが，現地での講義や説明は基本全て英語でした。もちろん研修以外でもレストランでの注文，マーケットでの買い物の時など，留学経験もなく英語の苦手な私は苦労しましたが，そんな中でもなんとか頑張ってコミュニケーションをとるのはとても楽しかったですし，必要に迫られるとこちらの言いたいことは伝わりますし，相手の会話の内容も理解できるようになるものだと痛感しました。そして，百聞は一見に如かずとはいいますが，自分で異国の土地を訪れ，見聞きすることで，自国についても改めてみつめるよい機会になることを実感しました。この海外研修で感じ，インスパイアされたことを忘れずに，今後も世界に目を向けることを忘れないようにしたいと思います。

謝　辞

最後になりますが，研修を企画・実行していただいた国立保健医療科学院の皆様，渡航が緩和された直後にもかかわらず，快く送り出してくださった徳島大学病院の皆様，そしてたくさん気にかけてくださった卒後臨床研修センターの皆様にこの場をかりて感謝申し上げます。ありがとうございました。

Experience of studying in the Philippines during training at the National Institute of Public Health

Nao Yoshimoto[1], Hisayoshi Morioka[2], Soichiro Sasa[1], Muneyuki Kadota[1], Megumi Tsuda[1], Kyoko Nishi[1], and Takashi Iwata[1]

[1] *The Post -graduate Education Center, Tokushima University Hospital, Tokushima, Japan*
[2] *Department of Public Health, Graduate School of Biomedical Sciences, Tokushima University, Tokushima, Japan*

SUMMARY

As a second-year resident at the University of Tokushima Hospital, I report on my experience of overseas training in the Philippines under the training program of the National Institute of Health Sciences. The National Institute of Health Sciences is an institution that conducts education, investigation, and research related to health, medical care, and welfare, and I trained for two months in the Department of Clinical Training in Community Health, Specialty Course III. In addition to the out-of-hospital training at the Ministry of Health, Labour and Welfare, Chiba Prefectural Government, and National Institute of Infectious Diseases, the one-week overseas training in the Philippines (Manila) consisted mainly of lectures and training on mosquito-borne infectious diseases, zoonosis, and parasites at the University of the Philippines, Philippine General Hospital, Suburban Health Center, and WHO Western Pacific Office. Infectious diseases are very different from those in Japan. The actual observation made us understand that rabies and parasitic infections are raging in the Philippines due to the sanitary conditions of the living environment, which is very different from that of Japan. By learning about the medical system at overseas medical facilities, we were able to rethink deeply about the merits of the Japanese medical system and the direction it should take in the future from various perspectives.

Key words : the National Institute of Health Sciences, Public health, studying abroad, Philippine